

千代の湯

Chiyonoyu
(東京都世田谷区)



玄関と暖簾

久しぶりに大江戸銭湯へやってきた。最後の取材をしてから1年4カ月も経っている。そして久しぶりに三軒茶屋へやってきた。この地の昭和湯と清水湯の銭湯を取材してから既に5年が経つ。時が経つのは早い。

今回紹介するのは千代の湯だ。東急田園都市線・三軒茶屋駅から徒歩5分以内と交通の便は至極良い。駅前の世田谷通りと玉川通りに挟まれた三角地帯は、飲食店が立ち並ぶ迷宮のようなところだ。千代の湯はまさにその中にある。

千代の湯を初めて訪れた者は、なかなかその玄関に到達できないかもしれない。建物は大きく煙突が目立つから、すぐに千代の湯の位置はわかるであろう。しかし、玄関へどのようにアプローチしたらよいのかわからない。特に暗くなってからでは本当にわからない。要注意である。

千代の湯の玄関は北と南の両側からアプ

ローチできるが、その通路の幅は60cm程度しかない。しかも、自転車侵入防止のための鉄柵が設けてあるので、人間であっても通るためには体を横向きにしなければならない。

鉄柵を越えるとそこはベンチ、下駄箱のある玄関だ。千代の湯は木造の堂々たる建築物であるが、なにしろ玄関へのアプローチが狭いので、その建築物の全容を玄関側から一枚の写真に収めることは不可能である。ちなみに下駄箱の鍵はほとんどなくなってしまっている。

脱衣室に入ると普通の銭湯となんら変わらない。番台があり、ドライヤー、新旧のマッサージ椅子(古い方は故障中)、体重計、足ツボマッサージ器、ぶら下がり健康器などがある。トイレは屋外にあるので、服を脱ぐ前に行っておこう。ロッカーは45個。

浴室もオーソドックスである。富士山のペンキ画ははげ落ちておらず、美しい。タイルのモザイク画もある。カランは21個。洗面器はもともと黄色だったと思われるが、うす茶色に変色してしまった年季物だ。

千代の湯の最大の特徴は浴槽とサウナだ。

浴槽は2つ。マッサージ流のある浅風呂とシンプルな深風呂で、鉱石を用いたラジウム温泉となっている。問題はその湯温だ。温度計は54℃を示している。54℃なんてありえないと思うなかれ。手をつっ込んだ瞬間悲鳴が出る温度である。正確にはわからないが50℃はあるのではないだろうか。特に深風呂が熱い。4人の取材班のうち、1人は手をつっ込んだだけで入るのを断念して

敗退したくらいである。常連客の1人も膝までしか入れなかったようだ。そう言えばこの銭湯の客層は若い。

サウナは追加料金無料のウェットサウナだ。定員は4人ほど。2~3分おきに、ストーブに給水（シャワーヘッドからストーブへ水をぶっかける）がなされ、蒸気が発生する。その際、水しぶきが周囲に飛び散るので、あまりストーブには近づきすぎないようにしよう。ストーブにはなぜか「おしっこをかけないで」と書いてある。まさかそんな悪戯をする人がいるのだろうか……。

千代の湯は間違いなく大江戸銭湯一番の熱湯だ。入浴後2時間経っても、取材班の足はポカポカ（いやヒリヒリ、ジンジンと言うべきか……）していたほどである。熱湯好きの銭湯ファンには絶対はずせない銭湯だ。

千代の湯を出た取材班は、迷宮のような飲食店街へ吸い込まれていった。うまい酒と肴を求めて。

- 名称：千代の湯
- 所在地：東京都世田谷区三軒茶屋 2-12-7
- 電話：03-3410-2535
- 営業時間：15:10~25:00
- 定休日：不定休
- 入浴料：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円、サウナ追加料金なし
- サウナ：あり
- テレビ：なし
- 取材日：2011 年 12 月 12 日（月）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部



玄関とベンチ、下駄箱